

第 1 回伊賀市総合計画審議会 会議録

開催日時	2024（令和 6）年 5 月 30 日（木）14：00～17：20
開催場所	伊賀市役所 4 階 庁議室
出席委員	岩崎 恭彦 （【1 号委員】三重大学人文学部） オチャンテ 村井 ロサ メルセデス （【1 号委員】桃山学院教育大学人間教育学部） 朴 恵淑 （【1 号委員】三重県地球温暖化防止活動推進センター） 片桐 新之介（【1 号委員】合同会社 C.SSS コーポレーション） 西口 真由 （【2 号委員】公募委員） 町野 真由美（【2 号委員】公募委員） 奥西 利江 （【3 号委員】社会福祉法人維雅幸育会） 荒井 恵美子（【3 号委員】男女共同参画ネットワーク会議） 船見 くみ子（【3 号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会） 増田 政俊 （【3 号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会） 加納 圭子 （【4 号委員】 — ）
欠席委員	大北 薫 （【3 号委員】伊賀市消防団）
議事日程	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）評価の実施手法について （2）外部評価の実施について ① 健康・福祉分野 ② 生活・環境分野 ③ 産業・交流分野 ④ 生活基盤分野 ⑤ 教育・人権分野 ⑥ 文化・地域づくり分野 ⑦ 計画の推進分野 4 その他 （1）第 2 回伊賀市総合計画審議会について
議事概要	1 開会 （事務局） 令和 6 年度第 1 回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただく。 ★会議及び議事録公開の確認 （事務局） 本日の会議は運営規定により、会議を公開し、会議の傍聴を認めている。本日の会議

を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いします。
また、会議録についても公開させていただく。

★資料の確認

配付資料の確認。

- ・ 事項書
- ・ 資料 1 評価の実施手法
- ・ 資料 2 外部評価シート
- ・ 資料 3-1、3-2 横断的な取り組み状況
- ・ 資料 4-1、4-2 令和 5 年度まちづくりアンケート調査結果報告書、調査票
- ・ 参考資料 1 施策シート（案）
- ・ 参考資料 2 令和 5 年 7 月外部評価結果報告書
- ・ 参考資料 3 伊賀市総合計画審議会条例
- ・ 伊賀市総合計画審議会委員名簿

★会議成立の確認

（事務局）

「伊賀市総合計画審議会条例」第 6 条第 2 項に基づき、委員の半数以上の出席あるため、会議成立の確認。「当審議会条例」第 6 条第 1 項により、会長が議長となるとあるので、以下の進行について、会長をお願いします。

2 あいさつ

（会長）— あいさつ —

3 議事（１）評価の実施手法について

（事務局）— 説明 —

＜会長＞：資料を一通りご確認いただいたが、ここまでに質問やご意見がありましたらよろしく願いたい。

＜委員＞：資料 4-1 「まちづくりアンケート」の「38 施策比較一覧」について、
平均値を大きく上回っている施策については今後も引き続き取り組んでほしい。一方で、平均値に達していない施策については今後特に重要な部分になる。伊賀市第 3 次基本計画のスローガンは「“ひとが輝く 地域が輝く” 伊賀市」だが、人が輝くためには若い人たちが頑張っていく必要がある。子育て支援や少子化の支援など、伊賀ならではの方針やモデルが考えられるのではないかな。

満足度に関して、「施策(6)子育て・少子化対策」の満足度は 44.7%と、7 分野の平均値の 50.8%と比べて低い。しかし、ものすごく遅れているということではないと感じる。参画度においても、「施策（６）子育て・少子化対策」は 28.1%と、平均値に比べて低い。この施策は避けて通れない重点

施策である。

また、「施策（34）広聴広報」の満足度が49.4%と低くなっているが、まだ何もモデルができていないから低いのか、説明をお願いしたい。
定量的な分析はできていると思うが、定性的な部分が合致した形で見ることができるとよい。数値化できない部分についても理解ができるようオープンできるものはしてほしい。

＜委員＞：資料4-1「まちづくりアンケート」の「回答者の属性」の「（2）年齢」について、50歳から70歳以上の間で全体の約7割の方が回答している。これが参画度に影響を与えているのではないか。年齢層をばらつかせる取り組みなど、回答者に対して何かアクションはあるのか。

資料4-1「まちづくりアンケート」の「38 施策比較一覧」について、数字だけがすべてではないが、数字が着目点になってしまうことは、このアンケートの弱点である。丁寧に分析をお願いしたい。

＜委員＞：資料4-1「まちづくりアンケート」の「回答者の属性」の「（4）職業」について、「無職（家事に従事する場合を含む）」とあるが、ここには高齢で退職された人もいるため、主婦は別に分けた方が良いのではないか。
主婦の満足度や参画度が分かることで施策の効果も分かるのではないか。

（2）外部評価の実施について

（事務局）— 説明 —

＜会長＞：評価の視点について、確認をするが、A「成果指標進展度」で特に進展度が低い施策、×や△に注視したうえでC①「まちづくりアンケート調査結果（令和5年度）」、C②「まちづくりアンケート調査結果（令和5年度各分野別）」を参考に、B「事務事業の課題・事業の進捗」で担当課の分析がしっかりできていれば「適正」とみなし、問題がある施策については、「適正ではない、見直しが必要」と判断し、審議会として「どう見直すべきか」等の意見を附すような流れで進めていくので、よろしくをお願いしたい。
進め方は、7つの分野別に進めていくが、時間の目安としては、1分野20分を目途に、事務局からの説明5分、評価意見の記入5分、意見の披露が10分という流れで進めていくので、ご協力をお願いしたい。

（事務局）：— 「1. 健康・福祉」分野の説明 —

＜委員＞：— 「1. 健康・福祉」分野の意見記入・意見発表 —

＜委員＞：施策1-1「地域共生社会づくり」の基本事業「共助のしくみづくり」のKPI「地域福祉ネットワーク会議 開催数」について、令和4年度の実績値が68に対して令和5年度は60と下がっている。進展度が◎という評価は適正ではない。

	＜会長＞：（同じ箇所の補足で）達成した時点で上乗せした目標を載せることはできないのか。 ＜委員＞：（同じ箇所の補足で）今回は何もできなかったから×というような評価をするのではなく、定性的な部分を書いていく必要があるのではないかな。 ＜委員＞：施策１－５「障がい者支援」のKPI「地域生活支援拠点事業 登録事業所数」について、行政は事業所の登録を促進していると思うが、利用促進に関する実績が無いのではないかな。今回の計画では事業所数が指標となっているが、今後はKPIの設定項目を変更する必要があるのではないかな。実際の利用者数というところで成果を見たい。 また、全体的に福祉関係では人材確保と育成が課題となっている。福祉に携わりたい人の発掘や外国人介護士を増やすこと、外国人スタッフの日本語や福祉技術のキャリアアップといった、人材育成の観点で成果指標の設定をお願いしたい。 ＜委員＞：施策１－２「医療」の基本事業「在宅医療」のKPI「多職種間連携の意識」について、実績値が33%のままだが、連携の意識の数字の出し方がどうなっているのかが分からない。数字を見て議論するものなので変わらない指標があるのはどうなのかな。 ＜会長＞：（同じ箇所の補足で）短期的に見れば今年度の意見をどう生かすか、長期的に見れば、今のような意見を踏まえた指標の設定をしていただく。次期計画への申し送りをお願いしたい。 （事務局）：— 「２．生活・環境」分野の説明 — ＜委員＞：— 「２．生活・環境」分野の意見記入・意見発表 — ＜委員＞：施策２－１「危機管理」の基本事業「地域防災力・減災力」のKPI「地域の避難所運営マニュアル策定率」について、目標値 100%は厳しいのではないかな。水害ではハザードマップのエリアが限られているため、重点エリアの避難所運営マニュアル策定率を優先的に設定した方が効果的ではないかな。 また、避難所運営ができる市の職員がすぐ避難所に行けるかという問題がある。避難所エリアの重点性もしくはその災害に応じて、優先的にまずここを開設するというパターンを設定し、職員の配置や女性の方が避難した際の対応などを反映させた上で重点的避難所を指定した方が良いのではないかな。その上で、他の避難所が無事であれば分散するという流れの方が良いのではないかな。 ＜委員＞：施策２－１「危機管理」と施策２－３「安心な暮らし」について、目標が達成されていないものが多い。比較的に伊賀市は安全であると思うが、
--	---

	なぜこのような結果になるのか疑問である。事務事業がチャレンジングであるため厳しい評価になっているのか、当たり前のことだと認識されているから低いのか。どう考えているのか教えてほしい。 数字だけを見ると、安全ではないような印象を受ける。数値を尊重しながらも定性的な部分とあわせていく工夫が必要である。 ＜会長＞：（同じ箇所の補足で）ロマンス詐欺などは相談ができないので、指標のあり方の検討が必要になってくる。 ＜委員＞：施策２－４「環境保全」について、生物多様性の指標が必要ではないか。いなべ市では生物多様性を意識して指標を作っており、三重県も力を入れている。そこと整合性をとることが重要である。 ＜委員＞：施策２－１「危機管理」について、能登半島地震では高齢者や障がい者の災害関連死の割合が高い。避難所の開設も必要だが、関連死について計画に盛り込むことが必要ではないか。 ＜委員＞：施策２－６「上下水道」の基本事業「上水道」のKPI「地震に強い水道管路延長の割合」について、少しずつしか進まない指標ではないか。長期的な目標であるため、掘り下げるか、指標の取り方を変えるかが必要ではないか。５年といった期間に合ったKPIにすることが良いのではないか。 ＜委員＞：施策２－６「上下水道」の基本事業「上水道」について、基幹線もあるため、ここをしっかりとれば復旧が早いというような見込みのもとに進めていくことができるのではないか。 ＜委員＞：（同じ箇所の補足で）「圧が高いところ」などの切り口もあるのではないか。 ＜委員＞：施策２－５「一般廃棄物」と施策２－４「環境保全」について、基本事業「不法投棄の防止」は施策「環境保全」よりも施策「一般廃棄物」の事業ではないか。不法投棄は生活の中で起こっていることである。生活の安全・安心は、何かが増えたことで実感するのではなく、一般廃棄物などが減ることで実感するのではないか。減ることを指標にする方が安全・安心について感じやすいのではないか。 ＜委員＞：施策２－５「一般廃棄物」について、一般廃棄物と産業廃棄物が分けられていない。施策２－５「一般廃棄物」は住民を対象としているため一般廃棄物としていると思うが、今後は事業者へのアンケートも必要である。大きい枠組みの中で、温暖化や生物多様性を考えることが重要で、考え方が古い。次期計画は新しい流れが必要ではないか。トップランナーとして伊賀市の姿を見せてほしい。一般の人が不法投棄するかは分からないが、計画的にしている人への対応を考える必要がある。環境保全の観点で不法投棄を考えるのは難しい。縦割りではなく分野横断的な視点を意識して取り組んでほしい。 ＜会長＞：（同じ箇所の補足で）基本事業の置き方に問題がある。KPIと基本事業の選
--	--

	定は次期計画で見直す必要がある。 ＜委員＞：施策2-3「安心な暮らし」について、課題だけを見ると分からない部分があり、基本事業に言及せざるを得ない。「安心な暮らし」や「環境保全」について、市民を守ることだと思うが、どう守られているかという点も安心感につながる。KPI「刑法犯の認知件数」などだけでなく、「市民を守っていく」という姿勢をKPIに入れてもいいのではないかな。 （事務局）：— 「3. 産業・交流」分野の説明 — ＜委員＞：— 「3. 産業・交流」分野の意見記入・意見発表 — ＜委員＞：参考資料1「施策シート（案）」の施策3-3「森林保全・林業」の基本事業「森林資源の利活用」の「事業の進捗」について、「森林資源の利活用が進んだことにより、未利用材のバイオマス利用が減少している」とあるが、木材としての利用が増えたため、バイオマスの原材料供給が少なくなったという理解でよいかな。今は材料が無いというバイオマスプラントが多いが、一度検証してほしい。 ＜委員＞：施策3-4「中心市街地活性化」の基本事業「市街地整備」の「課題」について、「空き家活用、回遊性向上などのまちづくりについて、地域や民間団体が主体となった取組みが少ない」と記載されているが、誰に対しての課題なのか分からない。書き方を考える必要がある。「空き店舗等活用件数」を指標にすることはよいが、課題の欄にはできていないことが多く書かれており、実感と進展度の評価が合っていないと感じる。補足説明がほしい。基本事業のところも、もう少し盛りだくさんな視点でKPIを設定するなどしてほしい。様々な取り組みも含め期待をしたい。 ＜会長＞：去年もあったが、他人事なことが多い。直接的な施策が少ないということは分かるが、どう間接的に誘導するかが重要であるのに、それが書かれていない。 ＜委員＞：施策3-4「中心市街地活性化」について、人流データは通行量だけでなく商業目線のデータが必要。中心市街地でお金が落ちているのか、お金を落としてくれるようなお店ができているのかという観点で項目を設けていただきたい。 ＜委員＞：施策3-6「就業・起業」の基本事業「創業支援」のKPI「起業数」について、創業支援が伸びていることはよいことだが、どれほどの雇用が生まれ、広がっているのかは起業数だけでは分からない。起業する人に対しては小規模な支援になると思うが、高齢者や障がい者、外国人などの就労が困難な人たち、採用のミスマッチで働けない人には、企業と行政、福祉法人などの団体が中間的な場所を新たに作るというような多様な雇用形態があっても良いのではないかな。
--	---

	＜会長＞：（同じ箇所の補足で）施策１－１「地域共生社会づくり」につながる指摘でもある。 ＜委員＞：施策３－６「就業・起業」の基本事業「創業支援」について、どれだけ市が、高齢者や障がい者、外国人などの就労が困難な人への支援をしなければならないかを知っているのか。出前講座など、何らかの取り組みは行われているのか。 ＜委員＞：施策３－１「観光」について、観光は伸びていると感じるが、インバウンドに関わる部分がどれほど伸びているのか。インバウンド観光客や、使っているお金など分かれば、どれだけ伸びているかが見えるのではないか。ここでのリピーター率や旅行消費額は日本人観光客についてのことなのか。現在は円安のため、韓国や中国からの観光客が多く、今がチャンスだと感じる。 ＜委員＞：（同じ箇所の補足で）甲賀市はベトナムをターゲットに戦略を打っている。 ＜委員＞：施策３－１「観光」について、伊賀は海外の観光客を呼び寄せる戦略をどのくらいしているのかということが見えない。 ＜委員＞：施策３－１「観光」について、ホームページに力を入れることが重要。分かりやすく、言いたいことを先に言うことが重要。多言語化すればさらに良くなる。 ＜委員＞：施策３－２「農業」の基本事業「農畜産物の生産振興」のKPI「伊賀米の１等米比率」について、夏が熱いと１等米にならない。今年の夏も熱いため目標の７０％には届かないと考えられる。域外出荷がどれぐらいできたかや生産者の後継者がどれほど増えたかなどのデータがよいのではないか。 （事務局）：— 「４．生活基盤」分野の説明 — ＜委員＞：— 「４．生活基盤」分野の意見記入・意見発表 — ＜委員＞：施策４－１「都市政策」の基本事業「良好な景観形成」のKPI「届出書の適合率」について、既存不適格の部分はどうするか、例えば、景観にそぐわないが昔からある看板などについて、改善率を示す方が良いのではないか。 また、市街地の空洞化といった問題もあるかと思うが、基本計画と都市計画との整合性も含めた上で、どの指標が適当なのか考えてもらいたい。 ＜委員＞：施策４－２「住環境整備」の基本事業「空き家対策」の「課題」について、古民家再生活用事業が中心市街地を中心に進めていくことは理解しているが、ホテル事業については、郡部でできないのか。それは都市計画に書かれているからなのか、民間企業がやりたがらないからなのか。 また、城下町ホテルという考え方は、お城を核にして伊賀の郡部も全部含めてやっていくのか。地域の人でもできるのではないかという期待感を持っている。地域に行っていただいて、住みたいと思ってもらうことは伊賀市全体で考えていくことである。古民家再生についても、伊賀市全体を見
--	---

	た課題を挙げてもらえると分かりやすくなり、「維持しよう」とか、「放置しないようにしよう」といったビジョンが持てるのではないか。他の課とも連携して取り組んでほしい。 ＜委員＞：施策4-2「住環境整備」の基本事業「木造住宅等の耐震化」のKPI「住宅の耐震化率」について、実績値が4年間を通して変わっていないにもかかわらず「計画通り進めている」となっているのはどうしてか。能登半島地震の木造建築の倒れ方を鑑みると、伊賀市でも大きな被害が出るのが考えられる。重要な部分にもかかわらず数字が動いていないのは問題ではないか。 ＜委員＞：施策4-2「住環境整備」の基本事業「空き家対策」について、非常に成功しているように見えるが、分野3「産業・交流」の施策3-4「中心市街地活性化」でもプラスの効果があると書いてみてはどうか。分野横断的なことについて矛盾が生じていると感じる。空き家対策で成功しているという点をどうアピールしていくかを考えていく必要がある。 ＜会長＞：（同じ箇所の補足で）資料3-2「横断的な取り組み状況」の生かし方にもつながる。施策の評価だけでなく、横軸でも見ていこうという資料であるはずだが、生かされていない。 （事務局）：— 「5. 教育・人権」分野の説明 — ＜委員＞：— 「5. 教育・人権」分野の意見記入・意見発表 — ＜委員＞：施策5-3「学校教育」について、基本事業に「学校マニフェスト」と「児童生徒の支援」の2つがあり、成果指標がそれぞれ2つあるのに課題は1つしかないのはなぜか。他の課の外部評価シートを見ると、KPIと効果検証の関連があったが、ここでは分からない。参考資料1「施策シート(案)」を見ても、効果検証と改善策が同じことを書いてあったりする。「児童生徒の支援」も成果指標と効果検証の関連が読みづらかった。 施策5-1「人権尊重・非核平和」について、非核平和推進中学生広島派遣事業で市内中学校から各1名、合計10名が広島へ行き平和式典に参加するが、KPIをみると、「中学生広島派遣の代替として実施した中学生アンケート、または、中学生広島派遣事業に参加した中学生へのアンケートにおける、平和な世界をつくるための取り組みへの意欲」で（1. したい 2. できればしたい）と答えた生徒の割合が7割と、目標値に達成していない。進展度は○でよいのか。 子どもたちが広島へ派遣させていただいて、「ひゅーまんフェスタ 2023」で発表し、市広報にも載せていただいているが、世界の戦争の現実をどう受けとめているのか分からない。自分事になっていないと感じる。「計画通り進めている」となっているが、中身をもう一度考えてほしい。
--	---

	＜委員＞：資料４－１「まちづくりアンケート」の「５教育・人権」の「施策（２３）人権尊重・非核平和」について、満足度で、「やや不満」の回答数が多い。具体的に何が不満なのか。細かい質問のため分析が難しいと思うが、何について不満に思っているかを知ることができると改善につながる。 ＜会長＞：（同じ箇所の補足で）「まちづくりアンケート」の施策（２３）「人権尊重・非核平和」の質問がそもそも異質なのではないか。「人権に対する正しい知識を習得する機会があるか」を問いかけているが、そもそも機会があることを知らない人がいる。また、機会はあるが満足していない人もいる。問いかけ方も考えていただきたい。 ＜委員＞：施策５－５「生涯学習」の基本事業「青少年健全育成」のKPI「体験事業参加者数」について、コロナもあり数が落ち込んでいるが、その後戻ってきてない。子どもの居場所づくりが一本化されたことで何かが欠落したのか。一本化されたことで受け皿が無くなってはいけなない。そもそも 7,500 人を目指していて、策定時には 7,300 人近くいたにもかかわらず今は少なくなっている。受け皿を作らないといけなないのではないか。連携しきれていないのか。 ＜委員＞：施策５－３「学校教育」の基本事業「児童生徒の支援」について、KPI「個別の教育支援計画・指導計画の策定割合」とKPI「情報モラル学習を実施する学校の割合」の成果指標進展度がずっと 100%だが、これらはもともと KPI に入れるべきではなく、義務なのではないか。課題があるのなら、その課題について KPI を設定すればよいのではないか。 ＜委員＞：（同じ箇所の補足で）計画を策定して、どういうことを達成したかを書いていただきたい。 ＜委員＞：書いている人の意識で差がある。施策シートを見ると、全部まとめて基本事業と事務事業に書いてあって、効果検証のところだけ分けたようになっている。 （事務局）：— 「６．文化・地域づくり」分野の説明 — ＜委員＞：— 「６．文化・地域づくり」分野の意見記入・意見発表 — ＜委員＞：施策６－４「歴史・文化遺産」の基本事業「文化財の活用」のKPI「文化財施設 入館者数」の「課題」について、「指定文化財が多いため、保護・保存に係る事業に大半の時間と予算と費やさざるを得ず、活用の取り組みが不十分である」と書いてあるが、文化都市協会がやっていることでも、指標にするからには何がいけななかったのかを書かないといけなない。観光部署と連携してやっていただきたい。 施策６－５「スポーツ」の基本事業「スポーツ振興」のKPI「スポーツ活動実施率」について、極端に令和５年度が少ないのはなぜなのか。目標値設
--	--

	定が適正ではないのではないかな。 ＜委員＞：施策6-2「多文化共生」について、アンケート結果では、満足度は高いが参画度は低くなっている。これは、理解はあるが交流する機会がないということなのか。理由を教えてください。 ＜委員＞：施策6-6「定住・関係人口」の基本事業「魅力発信」のKPI「ふるさと納税人数」について、人数よりもリピート率を検証しないといけない。関係人口の一つとしてとらえるのであれば、変動の激しい人数というものを指標にするのは難しい。 施策6-5「スポーツ」の基本事業「スポーツ振興」のKPI「スポーツの活動実施率」について、高齢化が進む地域においては、スポーツ活動実施率よりも、健康を維持するための運動をどのくらいしているかを見ることが重要である。健康を軸とする方がよい。高齢化社会においては、体を動かしているかを見ることが重要である。 ＜会長＞：（同じ箇所の補足で）競技スポーツか生涯スポーツなのかという点でもいろいろと多義的である。 ＜委員＞：施策6-5「スポーツ」について、2027年にワールドマスタースゲームズ関西が開催されるが、伊賀市は特になのか。 ＜委員＞：施策6-2「多文化共生」について、施設で、外国人スタッフを雇用して、外国人の利用者が増えたということがあった。共生するには、日本に暮らしている外国人の目線で外国人が橋渡しできたらよい。行政が外国人職員の採用や、日本人と交流するときの要となる外国人を育成することがよいのではないかな。 ＜委員＞：施策6-4「歴史・文化遺産」の基本事業「歴史まちづくり」のKPI「歴史的風致維持向上計画事業 進捗状況」の「課題」について、初瀬街道と阿保宿地域の地域の人は頑張ろうとしているが、行政としては予算が確保できないというようなことが書かれている。市が予算を確保できないにもかかわらず進展度が×という評価は厳しいのではないかな。また、「中部歴まちサミット」を開催することは課題に入れるべきではない。担当課レベルでの話ではあるが、計画の中では関係がない。 ＜委員＞：施策6-6「定住・関係人口」の基本事業「地域人材育成」について、KPI「20～30代の年間転入超過数」の実績値の差が激しいことについてどう捉えたらよいか。KPI「ふるさと納税人数」は目標値より伸びているため、前向きに捉えてよいが、KPI「地域人材育成」についてはどう考えればよいのか。伊賀に魅力があるにもかかわらず、その魅力が分からないまま地域人材育成を考えてもいけない。この結果をヒントにして、前向きに捉えて考えてほしい。
--	---

	(事務局)：― 「7. 計画の推進」分野の説明 ― ＜委員＞：― 「7. 計画の推進」分野の意見記入・意見発表 ― ＜委員＞：施策7-1「広聴広報」と施策7-5「デジタル自治」について、ホームページのアクセス数が変わっていかないといけない。SNSの利用者数やエンゲージメントを指標化していく必要がある。書かない窓口・来ない窓口の利用件数やAIによる市民の問い合わせ対応の利用率を入れていく必要がある。 施策7-3「組織・人事」の基本事業「人事制度の運用と人材育成」のKPI「人事評価で標準得点を上回る職員割合」について、おおむね85%前後だが、人事評価の中身がどう変わっているかが大事。自分の業務をいかに改善して市民サービスを向上するかということが評価されないといけない。民間では改善されつつあるので考慮してほしい。 ＜委員＞：施策7-1「広聴広報」の基本事業「広聴機能」のKPI「市ホームページで寄せられた意見件数」について、目標値を上回っているが、意見はどういった手法によるものなのかが知りたい。 施策7-5基本事業「デジタル自治」の「デジタルトランスフォーメーション」について、DXの推進は当たり前のことだが、指標の桁数が違うのではないと思うぐらい少ない。少ない数値目標で目標達成ということではいいのか。紙からデジタルへの移行は、高齢者への対応もあるため併用があっ ていいが、少なくとも、市役所関係の人は意識が変わっていると思うので、トップランナーとしての姿勢を見せてほしい。 ＜委員＞：施策7-3「組織・人事」の基本事業「職場環境の整備」のKPI「ストレスチェックの受験職員割合」について、ストレスチェックの受験割合は義務ではないのか。なぜ90%が目標なのか。 時間外勤務が1か月で約15時間と少ないように感じるが、どれくらいを目標にしているのか。時間外勤務をする人とししない人の差があるのではない か。 ＜委員＞：施策7-2「財政運営」の基本事業「公有財産の有効活用」のKPI「公共施設縮減面積」について、使えなくなった土地や建物について、普通財産になっているものもある。行政の役目を終えた施設は手が付けられず、朽ちていくだけである。どうしていくか市民は心配している。 ＜会長＞：一通り各分野のご意見をいただいたが、全体を通してしていかかが。次回は今日いただいたご意見の中から、代表的なものを取り上げさせていただき、その取りまとめ方がよいかなどについて、またご意見などをいただきたい。評価の仕方や、資料の集め方やアンケートのとり方などについても、ご意見いただいたものを総括的な意見として、最後に記載するので、そう
--	---

	したまとめ方でよいかということについてご検討いただきたい。 (事務局)：6月25日午前10時から開催させていただく。今日の意見の取りまとめの結果をお示しし、まとめの部分をご審議いただく。意見のご提出については、6月4日の火曜日までをお願いしたい。 <会長>：すべての進行を終えたので事務局にお返しする。 (事務局)：今日の意見を踏まえて、直せるところは直していく。次回の審議会では、次期計画についてどのような計画を作っていくべきかについてもご意見いただきたい。 本日はありがとうございました。
--	---